

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772401770
法人名	有限会社 ひまわり
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成 19 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772401770
法人名	有限会社 ひまわり
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	大阪府枚方市氷室台1丁目14-20 (電話) 072-858-5081

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(19年 7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤	3人, 非常勤 8人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 58 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松谷病院 津田病院、高濱歯科、佐多歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、法人の代表者が特養ホームに22年勤務の後、隣家を購入して平成15年1月開設した。特養勤務中の繋がりからの職員が何人かおられ、代表者と職員が一体となった質の高い介護が行われている。ホームは近くに里山も見える戸数約600余の静かな住宅地にある。この地に長く居住する代表者は地域との交流を大切に、地域に開かれたホームとして、積極的に地域防災訓練、清掃奉仕、児童の見守り隊など、また地区集会所の行事にも利用者、職員と共に参加している。利用者6人の状態がよく把握されるので、玄関は日中施錠していない。代表者、全職員共に介護の向上を目指す姿勢と意欲が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、代表者と職員の熱意で質の高い介護が行われており、基本的に大きな改善点はない。管理者、ケアマネ、職員のチームワークにより、更なる介護の向上が期待出来る。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を十分に理解し、自己評価は管理者とケアマネ、職員が相互に確認しながら実施し、業務の見直しと振り返りの機会として活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター、自治会、老人会、民生委員、入居者家族等の協力を得て2ヶ月に1回開催している。利用者の健康や安全対策、行事予定などを報告して会議の意見を収集し、職員会議で取り上げサービスに反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「ひまわり便り」や写真、行事予定などを郵送して、ホームの現状報告や利用者の様子を伝えている。訪問された家族から意見を貰いながら、職員で話し合い運営に生かすようにしている。意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者は自治会に加入し、職員と利用者が共に地区清掃奉仕、地域の安全見守り隊などに参加している。また、代表者と看護師、利用者3名が老人会に加入し、ホームを挙げて各種行事に参加している。このほか、校区主催の「認知症サポーター養成講座」に協力し、地域との繋がりを深めるよう努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域密着型ホームとしての理念を掲げている。「住み慣れた地域で、その人らしく暮らしたいという希望をかなえるホームです」の理念を守り実践されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示し、毎日朝礼で唱和し確認している。管理者と職員が理念を共有し、ケアの10原則を定めて同じく唱和し、日々の業務の中で実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は自治会に加入し、職員・利用者と共に地区主催の行事に協力、地区集会所の例会、清掃奉仕、児童の見守り隊などに参加している。また、代表者と利用者2人が老人会にも加入し、ホームを挙げて各種行事に参加している。このほか、毎月「ひまわり便り」を利用者が周辺住宅に手配りし、理解を求めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常より介護の向上を目指し意欲的に勉強しているため、管理者・職員が自己評価を行うことが、日常業務の見直しと振り返りのよい機会として理解している。改善に向けた取り組みが更に進められるものと期待される。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター、自治会、老人会、民生委員、入居者家族等の協力を得て2ヶ月に1回開催している。管理者は会議の意見を職員に伝えてサービスに反映した取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	校区福祉委員会、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」に協力し、保健センター、相談支援センター職員との連携を図っている。	○	市の担当部門を度々訪問し、連携や協力体制を得られるように努められることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ひまわり便り」や、写真や行事予定等を郵送して日常生活の様子を伝えている。家族の来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問された家族には、ホームの現状を報告して家族からの意見を収集し、そこから得た課題を職員会議等で話し合い、運営に生かすようにしている。意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	非常勤の職員については、家庭の事情等でやむを得ず退職するケースはあるが、利用者へのダメージは最小限にするよう配慮をしている。働きやすい職場環境の実現を目指し、安定的な利用者との関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて外部研修に参加出来るよう費用援助し、勤務時間を考慮している。研修内容を内部研修に取り入れて、研修の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政による市内全域のグループホームの研修会や連絡会議に参加して情報交換をしているが、地域の同業者連絡会の立ち上げには至っていない。	○	早期に地域のグループホーム連絡会を作り、相互の交流を通じてサービスの質の向上に繋がることを期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、家族と共に見学や半日の入居体験をしながら、利用者が徐々に馴染んでいけるよう慎重な対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	住宅街の家庭的な雰囲気の中で、入居までの生活を大切にし、利用者の意向を確認しながら、お互いに理解し支え合う関係を目指して実践に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、居宅担当のケアマネからの情報、利用者や家族との話し合いなどの中から本人の意向を把握し、この情報は全職員が共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議を定期的に行って検討し、介護計画に反映している。随時に担当者会議をもち個々の問題点等について話し合い、かかりつけ医にも相談している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行っているが、利用者の変化に応じて職員と家族等と話し合い、速やかに見直しをしている。モニタリングや総合的な評価を毎月行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	夜間の緊急時には、ホームの隣に代表者が居住しているので様々な状況に即座に対応できる。利用者6人と少人数のため利用者の急な通院送迎に臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制により主治医との連絡が密に取れる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の健康管理や緊急時の対応に関しては、主治医や家族等と話し合いをしている。終末ケアについては、ホーム独自の「看取り指針」を定めて文書化、家族等とは「緊急時の医療対応と看取りの介護」についての同意書を交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員研修やマニュアル等が充実しており、職員はプライバシーの確保について、利用者への配慮を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを大切にしてゆっくりとしたケアを行い、利用者の体調や気持ちに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が当番制により調理や配膳、片付けなど、利用者の出来ることを職員と一緒にし、出来る役割に自信を持ち、楽しみながら食事を取る配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後にゆっくり入浴できるよう時間調整をしている。利用者を2班に分け、週3～4回入浴しているが、夏季には希望者にシャワーを毎日使えるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、職員と一緒に車で買物に行くなど、利用者が楽しみながら出来ることを見つけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設のまわりや、近くの公園を散歩したり、希望の場所へ車で外出している。毎月地区ふれあい会館の行事予定が配布されるので、老人会の誕生会などにも職員と参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠していない。地域に密着し地域に開かれたホームを目指している。利用者が少人数のため状態の把握は出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の手順書を作成し、年4回昼夜を設定し消防署との連携を図って、避難訓練を実施している。地域主催の防災訓練にも利用者と共に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は食材業者の献立によりバランスの良い食事を提供、夜は利用者の好みを取り入れた献立にしている。食事や水分摂取量を確認し、個々の状態に応じた支援をしている。	○	年1回栄養バランスやカロリー計算など、保健所などに相談して専門家のチェックを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	門扉には利用者の名札を下げ、植木などを配して入りやすい。居間兼食堂は居心地よく手狭だが窓が大きいので明るい。浴室やトイレなどは利用者の身体機能を考慮した設備になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仏壇や家具などを持ち込み、利用者の好みで心地よく過ごせる工夫をしている。		